

事例番号:270145

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第三部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 38 週：尿中エストジオール定量 $5.0 \mu\text{g/dL}$ 以下、コンストラクションテスト (CST) 陰性

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 39 週 0 日 陣痛開始のため入院

4) 分娩経過

妊娠 39 週 0 日

17:25 経膈分娩

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:39 週 0 日

(2) 出生時体重:2314g

(3) 臍帯動脈血ガス分析値:

pH7.340、 PCO_2 46.2mmHg、 PO_2 21mmHg、 HCO_3^- 24.9mmol/L、BE-1mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施せず

(6) 診断等:

生後 6 日 退院

生後 9 ヶ月 坐位不可、体重増加不良のため受診、精神運動発達遅滞

(7) 頭部画像所見:

生後 9 ヶ月 頭部 MRI/MRA で有意な所見なし(髄鞘化も含めて)

生後 3 歳 5 ヶ月 頭部 MRI で脳実質の形態的な異常はなし

髄鞘化も年齢相当、病的な異常信号はなし

6) 診療体制等に関する情報

- (1) 診療区分: 病院
- (2) 関わった医療スタッフの数
医師: 産科医 1 名
看護スタッフ: 助産師 5 名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 本事例における脳性麻痺発症の原因は、不明である。
- (2) 原因となる事象が生じた時期の特定も困難である。

3. 臨床経過に関する医学的評価

- 1) 妊娠経過
妊娠中の管理は一般的である。
- 2) 分娩経過
入院後および分娩の管理は一般的である。
- 3) 新生児経過
出生後の管理は一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

- 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項
なし。
- 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項
なし。
- 3) わが国における産科医療について検討すべき事項
 - (1) 学会・職能団体に対して
本事例のような、原因が特定できない脳性麻痺発症の事例について集積を行い、原因や病態解明のため、調査、研究を進めることが望まれる。
 - (2) 国・地方自治体に対して
なし。